

稲作管理情報 第6号 コシヒカリの活力維持 特集

適切な穂肥と水管理で稲体の活力維持を図りましょう!!

1 コシヒカリの穂肥 ~適切な穂肥施用で倒伏や品質低下の防止~

今年のコシヒカリの幼穂形成期(幼穂長2mm)は、ほ場間差がありますがほぼ平年並みの7月12日頃と推測されます。

コシヒカリの幼穂形成期と出穂期の予想

田植日	幼穂形成期	出穂期
5月13日	7月12日頃	8月4日頃

(1) 肥効調節型(基肥一発)肥料を使用している場合

- ・安易な追肥は控えましょう。ただし、出穂7日前(7月28日頃)に表1のように葉色が薄い場合には、出穂の3日前までに追加穂肥を施用し、稲体の充実を図りましょう。

表1 追肥が必要と判断される葉色と施用量の目安

水田の立地	追肥が必要となる葉色	施用量(10a当たり)
砂壤土や秋落ちする水田	4.2未満	追肥3号 5~7kg
小矢部川西岸等の肥沃田	4.0未満	

(2) 分施肥系の場合

- ・1回目穂肥施用時期は、5月13日田植えほ場で7月20日頃からと予想されます。
- ・穂肥は、幼穂長を確認した上で、表2の量を目安として追肥3号を施用しましょう。

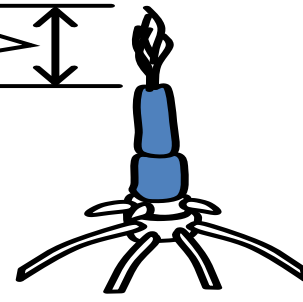
表2 生育状態別の穂肥施用の目安(コシヒカリ)

稲の姿		ガッチリ	ややメラつく	メラつく
らち間		すっきり見える	やや見える	見えない
草丈		82cm以下	85cm程度	85cm超
株当り茎数	70株植	21本以下	23本程度	25本超
	60株植	24本以下	25本程度	28本超
葉色		3.6	3.7	3.8以上

1回目穂肥	施用時期	幼穂長15mm(7/20頃)		施用しない
	施用量	10kg/10a	7kg/10a	
2回目穂肥	施用時期	1回目の7日後(7/27頃)		幼穂長10cm(幼穂形成期から約14日後)(7/26頃)
	施用量	埴壤土	12kg/10a	
		壤土	13kg/10a	
		砂壤土	14kg/10a	

1回目の穂肥は慎重に(倒伏回避)、2回目は确实(後期栄養凋落防止)に施用しましょう!

葉鞘をはぎ、幼穂を確認。⇒幼穂が15mmの時期に1回目穂肥を施用します



※2回目の穂肥施用後でも葉色が薄い(4.0以下)場合には、出穂3日前(8月1日頃)までに追肥3号で5~7kg/10a追肥しましょう。

2 早生(てんたかく)の追加穂肥

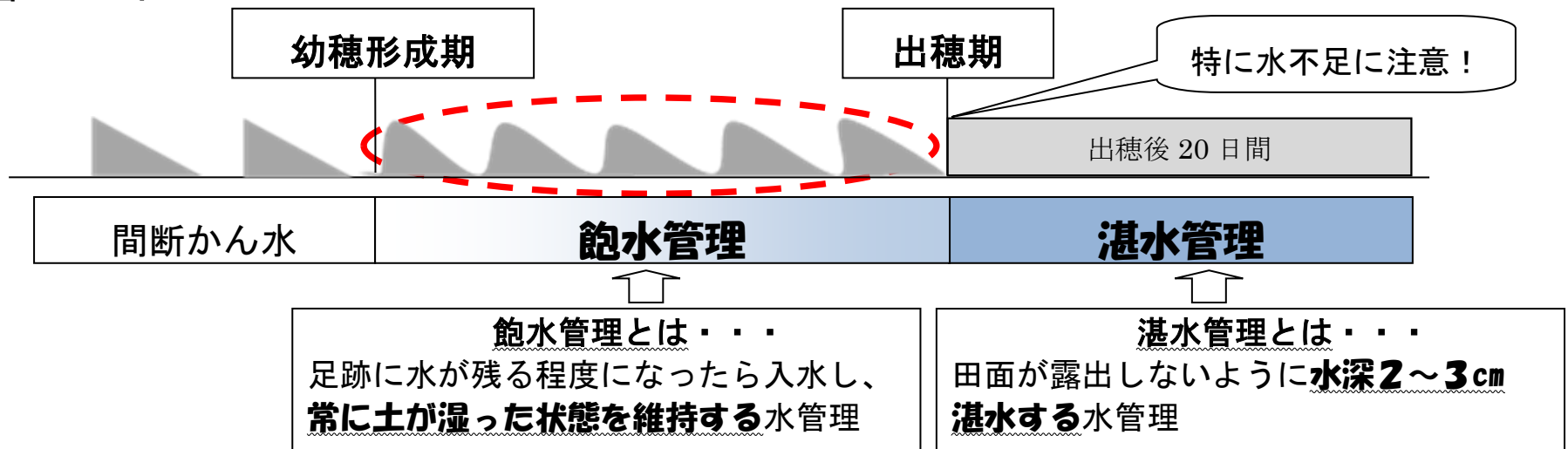
現在の葉色が4.0以下の場合、直ちに(出穂前まで)追肥3号で7kg/10a(チッソ成分で1kg/10a)程度の追肥を行いましょう。

(うら面につづく)

3 幼穂形成期～出穂後の水管理

- ①幼穂形成期～出穂期まで土壌を湿潤に保つ（＝飽水管理）
- ②出穂後20日間は、湛水管理（田面を露出させない）

＜水管理のイメージ＞



4 病害虫防除 ～カメムシ防除で品質確保～

- ・6月26日に実施したカメムシ類生息密度調査において斑点米の原因となるカメムシが平年より多く確認されています。基本防除を確実に実施しましょう。
- ・畦畔の草刈りは、雑草の穂が出ないように継続して行いましょう。
- ・穂の出ている雑草を刈る場合は、本田基本防除の直前に行いましょう。



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ

アカスジ
カスミカメ

＜防除時期の目安＞

【粉剤・液剤の場合】

区 分	穂揃期（1回目）	傾穂期（2回目） 1回目の7日後
粉剤対応	[キラップ粉剤DL] 4 kg/10a	[スタークル粉剤DL] 3 kg/10a
液剤対応	[キラップフロアブル] 75ml/10a (2,000倍) 散布量：150ℓ/10a	[スタークル液剤10] 150ml/10a (1,000倍) 散布量：150ℓ/10a
てんたかく 【出穂期予想：7月21日頃】	7月24～25日頃（穂揃期）	7月31～8月1日頃（傾穂期）
コシヒカリ 【出穂期予想：8月4日頃】	8月6日頃（穂揃期）	8月13日頃（傾穂期）

【粒剤の場合】

防除時期：出穂5日前

[キラップ粒剤]
3 kg/10a
注) 遅れずに散布しましょう。

【散布方法】

- ・湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布し、7日間は湛水を保つ。
- ・田面を露出させず、落水及びかけ流しをしない。

※今後、早生ほ場で靱割注意報等が発表された場合には3回目の防除を実施する場合があります。

5 熱中症に注意！ 安全な農作業を心掛けましょう

蒸し暑い時期になります。体力を過信せず、水分補給や休憩を適切にとるなどして、事故を防ぎましょう。

